

○小泉やすお 委員長

引き続きまして、民主党杉並区議団の質疑に入ります。

それでは、増田裕一委員、質問項目をお願いいたします。

◆増田裕一 委員

まず保育行政について、子どもの予防接種について、青少年の自立応援・社会参加事業について。使用する資料は、平成21年度杉並区事務事業評価表、整理番号250番、それと委員長、質疑の途中で資料を提示させていただきたいと思いますが、許可をお願いします。

○小泉やすお 委員長

どうぞ。

◆増田裕一 委員

まず、保育行政についてお尋ねしていきたいと思います。

まず、保育園の入園基準とは何でしょうか。概要をお示してください。

◎保育課長

認可保育園のお申し込みはたくさんちょうだいしてございますけれども、申し込みいただいた方の中で、保育を必要とされる度合い、そういったのを公平に判断するためでございます。例えば保護者の就労日数、時間などを指数化いたしまして、その指数の高い順に入園をしていただいているものでございます。

◆増田裕一 委員

それでは、加点基準及び減点基準をお示してください。

◎保育課長

今基本的な指数の出し方をご説明いたしましたが、さらに個別のご事情など、より精密に把握する必要もございまして、例えばひとり親家庭の方、あるいは年齢上限のある分園から3歳以上の園に行かれる方、あるいはきょうだいが在園されている方、主にそういったときにまず指数を加算します。

また逆に減算する、マイナスする場合もございまして、例えば同居のおじいちゃん、おばあちゃんがいる場合とか、あ

るいは同伴して出勤が可能な場合、そういった幾つかの事例で逆に減点をするというものがございます。

◆増田裕一 委員

私、巷間、インターネット上や複数の区民の方からお話で伺いますが、保育園に入園できるよう勤務証明書を捏造したり、偽装離婚を行うことで意図的に指数を有利に仕向ける不正行為が行われているのではないかというような疑いも話として聞きます。区はこうした情報をご存じでしょうか。

◎保育課長

確かにインターネットなどいろいろ見ておりまして、そのような情報が掲示板なんかに掲載している、そういったことは見たことはございますけれども、当区でそのような事例が発生しているというふうには承知してございません。

◆増田裕一 委員

先ほど述べた不正行為は、本当に保育を必要としている区民の機会を奪うということになると思います。到底容認することはできません。公平かつ公正な入園判定を期待しますが、区の対応はいかがでしょうか。また、不正行為が発覚した場合の対応はいかがでしょうか。

◎保育課長

まさにご指摘のとおりだと存じます。私どもでも、申請をいただく際にヒアリングといいますが、面接を行って、内容の確認などをしております。また、審査に当たって何か不審な点等がある場合には、追加の書類を出していただいたり、あるいは勤務先のほうに直接電話したりということで、厳正な審査に努めてございます。

ご指摘のようなことが万が一発生した場合につきましては、やはりこれはあってはならないことでございますので、事情に応じまして、退園を含めて厳正な対応をさせていただきます。

◆増田裕一 委員

入園申込者の入園後の追跡調査を実施するおつもりはありますか。

◎保育課長

在園児、一度入った方につきましても、4月に学年が上がるときに再度勤務証明書などの提出を求めまして、保育が必要な条件が継続しているかを毎年確認してございます。

◆増田裕一 委員

ことしも保育園の入園の判定結果が出ましたけれども、お兄さんが同じ保育園にいるんだけど入れなかったよというような区民の方からもお話を伺ったりもします。そういった状況もありますので、ぜひ公平公正な判定をお願いしたいと思います。

また、これらは、不正行為をしてまで保育園に入園せねばならぬような状況のあらわれというふうにも言えます。今後予測される保育需要に対応した受け皿づくりを早急に実施することを要望いたしまして、次の質問に移らせていただきたいと思います。

それでは、品川区では新年度から、すべての区立保育園及び幼稚園で、園児の父母に丸一日保育士体験をしてもらう親育て事業を展開するとのこと。同時に、保育園側の苦勞を親に知ってもらうこともねらいで、自分の子どもがいるクラスに入り、保育士と一緒に園児の世話をしたり、掃除や布団の出し入れをしたりするそうで、自分の子どもの在園中に一度は体験するよう勤めるとのこと。以前、平成20年第2回定例会の一般質問におきまして、私もこれに類する取り組みをご提案させていただきました。

そこでお尋ねしますが、品川区の取り組みにつきまして、区のご見解はいかがでしょうか。

◎保育課長

今ご指摘いただきました品川の事例、大変有意義な取り組みかと存じます。まさに今ご指摘いただいたように、保護者の方の育児力の向上であるとか、あるいは保護者と保育園が一緒になって子どもを育てる、共に育てるという視点からも意義のあることかなと考えてございます。ただ、実際実施に当たってはさまざま課題も考えられますので、そういったことも十分検討しながら、品川の事例などもしっかり見ていきたいと思います。

◆増田裕一 委員

引き続き検討をよろしく申し上げます。

それでは、子どもの予防接種についてお尋ねしていきたいと思います。

まず、予防接種に関連する平成22年度の予算額及び積算根拠をお示してください。

◎保健予防課長

予防接種事業に関します来年度予算ですが、6億6,282万余を計上しております。このうち主な内訳ですが、子どもの定期予防接種に係る費用につきまして3億1,300万余、また高齢者のインフルエンザに関します費用が1億5,900万余、またHibワクチンに関します費用が4,000万余、肺炎球菌ワクチンにつきましては7,630万余。

◎健康推進課長

子宮頸がんワクチンについて予防接種のところに入ってございまして、この子宮頸がんワクチンの助成が1,970万円でございます。

◆増田裕一 委員

それでは、Hib、肺炎球菌ワクチンの助成につきまして、積算根拠をお示してください。

◎保健予防課長

来年度予算につきましては、Hibワクチンについては、接種率を40%と見込んで積算しております。また肺炎球菌ワクチンにつきましては、接種率を20%として積算をさせていただきました。

◆増田裕一 委員

それでは、Hib、肺炎球菌ワクチンの助成制度はどのような経緯で創設されたのでしょうか。

◎保健予防課長

Hibワクチンですけれども、議会のほうでもさまざまご議論、ご意見をいただきました。また区民からの要望も多いというところもございます。また、お子さんがかかる髄膜炎という非常に重症な病気を予防できる。疾病の重症度ですとか、あとワクチンの接種回数が多いため、保護者の経済的な負担が非常に大きいというようなことなど、さまざまなことを勘案いたしまして、小児の任意接種の中から、Hibワクチンを優先的に接種助成を開始したということです。

また肺炎球菌ワクチンにつきましては、今般新型インフルエンザの流行がございまして、インフルエンザの流行に伴い、高齢者が肺炎を併発して生命の危険があるというような、季節性のインフルエンザですけれども、そういうデータがございましたので、今回のインフルエンザの流行をきっかけに、高齢者の肺炎球菌についても公費助成をするということで決定をさせていただきました。

◆増田裕一 委員

そもそも任意接種の助成制度を創設する際の基準とは何でしょうか。明確にお答えください。

◎保健予防課長

明確な基準というようなものはございませんが、先ほど申し上げましたような疾病の重症度ですとか、区民、議会からのご要望、また、周辺自治体での助成の状況等を総合的に勘案して決定をしております。

◆増田裕一 委員

それでは、Hib、肺炎球菌ワクチンの助成の制度概要をお示してください。

◎保健予防課長

Hibワクチンにつきましては、零歳から5歳未満のお子さんを対象に、1回4,000円の助成を行っております。接種費用は医療機関によって異なりますので、償還払いというような形で、接種回数に応じて助成額を振り込むというような方式をとっております。

肺炎球菌ワクチンにつきましては、65歳以上の方を対象に、こちらは保健所のほうに一たんお申し込みをいただきまして、申し込みをされた方には予診票をお送りし、予診票を持って区内の指定した医療機関に受診していただきますと、接種費用から4,000円を差し引いた金額で接種ができるというような仕組みになっております。

◆増田裕一 委員

ちなみに、Hibワクチンを接種するためにはどれくらいの料金がかかるのでしょうか、お願いします。

◎保健予防課長

Hibワクチンにつきましては、1回の接種費用がおおよそ8,000円から9,000円程度だというふうに聞いております。

◆増田裕一 委員

それでは、先ほど、Hibワクチンを打ちますのは細菌性髄膜炎を予防するためであるというような答弁がございました。細菌性髄膜炎とはどのような疾病でしょうか。また、その病因及び症状をお示してください。

◎保健予防課長

細菌性髄膜炎とは、髄膜と申しますのは脊髄を覆っている膜で、お子さんに多い、脊髄の周辺ですとか脳を取り巻く周辺の炎症が起こる脳脊髄炎というようなもので、非常に重症な病気です。症状といたしましては、意識障害ですとか頭痛

、発熱、嘔吐等の症状がございます。

◆増田裕一 委員

死亡率、また重症率、わかればお願いします。

◎保健予防課長

小児の髄膜炎につきましては、年間に600人程度の患者さんが出ているというふうに言われておりまして、そのうちの後遺症が残る方が60名、死亡する方が20名程度ではないかというような推計がされております。

◆増田裕一 委員

先ほども答弁でございましたが、細菌性髄膜炎にかかってしまいますと大変重症化して、死亡率も高いということでございます。

肺炎球菌ワクチンは、先ほど、これは高齢者の方に助成するというところでございましたが、これもまた細菌性髄膜炎の起炎菌の1つでございます。

先月、日本で初めて肺炎球菌による感染症を予防できる沈降7価肺炎球菌結合型ワクチンが市販され、乳幼児への接種が可能となりました。対象は生後2カ月から10歳未満で、標準接種回数は4回、1回1万円前後の料金とのことであります。

区は、小児用の肺炎球菌ワクチンをご存じでしょうか。

◎保健予防課長

先月24日に国内販売が開始されたということは存じております。

◆増田裕一 委員

肺炎球菌ワクチンは、Hibワクチンと同様、細菌性髄膜炎を予防するワクチンであります。千代田区は、新年度から小児用の肺炎球菌ワクチンの助成制度を創設するとのことですが、区のご見解はいかがでしょうか。

◎保健予防課長

感染性の髄膜炎の起炎菌としましては、インフルエンザ菌、先ほどから出ておりますHibワクチンで予防できる菌による髄膜炎が約55%、また肺炎球菌によるものは20%というふうに言われておりますので、Hibワクチンによる予防ができる髄膜炎のほうが圧倒的に多いだろうというふうに思っております。小児用の肺炎球菌ワクチンにつきましては、まだ発売間

もないというような状況ですので、今後の状況を見て、また検討なりしていきたいというふうに思っております。

◆増田裕一 委員

Hibワクチンと小児用肺炎球菌ワクチンを2つすれば、かなりの確率で細菌性髄膜炎を予防できるというような、そういった専門家のお話もございますので、ぜひ前向きに検討をしていただければと思います。

ところで、千代田、台東、世田谷、渋谷区では、子どもの季節性インフルエンザワクチンの助成制度が創設されております。杉並区では、子どもの季節性インフルエンザの任意接種に子育て応援券を使用できますが、助成制度は創設されておられません。どのような理由で、助成制度の創設ではなく子育て応援券を適用しているのでしょうか。

◎保健予防課長

季節性のインフルエンザにつきましては、高齢者に対して死亡の減少が見られるというような根拠がございます、予防接種法に基づく定期接種になっておりますので、高齢者に対してのみ助成を行っております、お子さんについては助成対象とはしていません。

◆増田裕一 委員

なぜ子育て応援券を利用しているのかということは、いかがでしょうか。

◎子育て支援課長

子育て応援券でございますけれども、インフルエンザ予防接種につきましては、親子の地域とのつながりを促すサービスということでは、必ずしも直接的には該当しないものでございますけれども、応援券事業開始当初に、まだ利用できるサービスが少なかったといったような背景もございまして、区民の皆さんの要望も踏まえながら、対象サービスに加えてきたということでございます。

◆増田裕一 委員

先ほども、任意接種に対する助成制度を創設する際の基準ということでかなりあいまいということでしたので、こちら辺もあわせて再検討していただければと思いますが、ちなみに、子育て応援券を子どもの季節性インフルエンザの任意接種に使用した金額は、直近の決算額ではどれくらいでしょうか。

◎子育て支援課長

20年度で5,900万ということでございます。

◆増田裕一 委員

かなりの高額ですね。

では、千代田、品川、渋谷、中野、荒川区におきましては、おたふく風邪と水ぼうそうのワクチンが、足立区では水ぼうそうのワクチンのみですが、助成制度が創設されております。おたふく風邪は中枢神経系、聴覚、睾丸、卵巣などの臓器に合併症を併発したときには重症となる例が多く、後遺症が残る危険性がございます。また、水ぼうそうも、アトピー性皮膚炎患者や妊婦、新生児などは重症になりやすく、予後には皮膚に発疹の跡が残る場合もあるため、いずれも乳幼児にとって厄介な感染症であると言えます。

これらの任意接種に係る料金は8,000円から9,000円前後と高額で、子育て中の親御さんにとっては決して軽くはない負担であります。先ほど述べたほかの5区では助成制度が創設されている、もしくは新年度に創設する予定ですが、おたふく風邪及び水ぼうそうワクチンの助成制度につきまして、区のご見解はいかがでしょうか。

◎保健予防課長

お子さんの任意の予防接種につきましては、さまざまな種類のワクチンがございます。その中でどれを優先的に公費助成していくかというような基準で、今年度Hibワクチンの助成を開始させていただきました。ご意見承りまして、今後の課題とさせていただきたいと思っております。

◆増田裕一 委員

先ほど他の委員からも指摘がございましたし、私も懇意にしております小児科医から同様のご意見をいただいております。子どもたちにとって身近な感染症の予防のためにも、任意予防接種全般の助成制度の検討を要望しまして、私の質問を終わらせていただきます。__